



総合討論

○座長(中村 浩志) 以上で5つの発表が終わりました。

この後10分間ほどの総合討論を行いたいと思います。

質問がありましたら挙手でお願いいたします。

先生方は前に出てきていただけますか。

〔発表者一同登壇〕

○座長(中村 浩志) どなたの発表からでも構いませんので挙手をお願いいたします。

発表によってはかなり専門的なことに立ち入った発表もありましたが、先生方には極力分かりやすい形で発表いただきました。いかがでしょうか。

中央アルプスにライチョウを復活させる事業は、マスコミでは山の上でやっていることばかりが報道されますが、実は、動物園の方、それから大学の研究者の方、多くの方の研究と協力によってこの事業が進められていることを今回の発表を通して御理解いただけたと思います。

質問はいかがでしょう。一質問がないようでしたら、予定時間になっておりますので、これで第3部の研究発表は終わらせていただきます。

先生方、ありがとうございました。(拍手)

〔発表者一同降壇〕

大会総括と謝辞

中村 浩志(大会実行委員長・一般財団法人中村浩志国際鳥類研究所)

○司会者(本間香菜子) ありがとうございます。

皆様の専門的な視点での研究また分析というのがライチョウの明日をつくり出していると強く感じました。

それでは、大会総括と謝辞ということで、第20回ライチョウ会議 長野県駒ヶ根・宮田大会、中村浩志大会実行委員長より改めて皆様に御挨拶を申し上げます。

先生、ぜひ演台のほうでお願いいたします。

〔大会実行委員長・一般財団法人中村浩志国際鳥類研究所 中村浩志 演台へ移動〕

○大会実行委員長(中村 浩志) 昨日のシンポジウム、今日の専門家会議、2日間の予定を無事に終えることができました。

発表、講演をしていただきました方、また長時間にわたり講演、発表を聞いていただきました皆さんに、まずお礼を申し上げたいと思います。

今回の20回の大会は、駒ヶ根市の皆さん、それから宮田村の皆さん、それからライチョウ会議の事務局の大町山岳博物館が中心となって3年間かけて企画、準備していただきました。

今回、駒ヶ根市さんからは素晴らしい会場を提供いただきました。

また、昨日のシンポジウムは駒ヶ根市さんを中心に会場設定などの準備をしていただきました。

また、今日の専門家会議は宮田村のほうで準備いただきました。

改めて、私のほうからお礼申し上げたいと思います。

今回の2日間のライチョウ会議を通してトピックとして取り上げるべき内容は、野生復帰に成功したということです。これは動物園の方と我々のように山で調査研究している人が協力した結果として成功した野生復帰です。

野生復帰というのは人の手で育てたものを野生に戻すことをいうわけですが、野生復帰はライチョウの飼育が始まった70年前から念願でした。

私の恩師の羽田健三先生が70年ほど前に大町山岳博物館で博物館の人たちと一緒に飼育を始めました。当初の最大の狙いは人の手で育てたライチョウを将来に備えて山へ戻すことだったわけです。私は学生の頃からそういうことを羽田先生から聞いておりました。最近10年くらいは動物園でも飼育しているわけですが、70年たち、ようやくその成果が今年は達成できたという記念すべき年だと思っております。

ライチョウの保護は、さらに新たな課題を抱えております。これからは多くの皆さんの協力によってライチョウが絶滅しないように英知を集めて頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしく申し上げます。

最後に、事前にパンフレットやポスター、それから冊子を準備いただきまして、また今回の当日の会場の運営を担当いただきましたアド・プランニングの会社の皆さんに私より心からお礼を申し上げたいと思います。大変スムーズな運営をしていただきました。ありがとうございました。(拍手)

〔大会実行委員長・一般財団法人中村浩志国際鳥類研究所 中村浩志 演台より移動〕

○司会者(本間香菜子) ありがとうございました。

以上をもちまして全てのプログラムは終了となります。

ライチョウの保護増殖事業において今非常に重要な地である中央アルプスの麓での今回のライチョウ会議は大変意義深いものになりました。